

Keyword : N A S

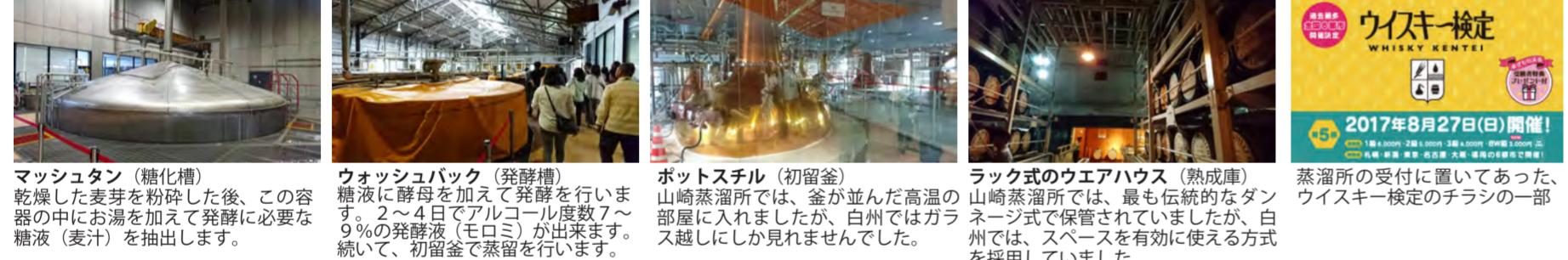
山崎蒸溜所のウエアハウスに入ると、薄暗い空間に独特の匂いと湿度を感じます。広い空間には非常に多くの樽が寝かされており、その中を歩いて見学している中で、自分が生まれた年に樽詰めされたものを見つけました。50年以上前のものです。サントリーは、2005年、2007年、2011年に、『山崎50年』という数量限定（1回目、2回目が50本、3回目が150本）のボトルを発売しています。販売価格は、なんと1本100万円！しかも、全てアツという間に完売になったというから驚きです。酒齢50年を超えるモルト原酒を使用したウイスキーは世界的にも希少性が高く、ウイスキーファンにとってはたまらない逸品だったのでしょうか。その後、このボトルは、オークションでしか見かけませんが、1,300万円くらいの高値で落札されたりしています。

ということは、この私と同じ年の樽は、いくらの価値があるのだろう…と考えながら、ウエアハウスを後にしました。山崎蒸溜所が生まれたことによって、日本のウイスキーも世界5大ウイスキー（スコットランド、アイルランド、アメリカ、カナダ、日本）の仲間入りを果たしました。大変喜ばしいことです。確かに、酒齢何十年というウイスキーも価値がありますが、最近では、熟成年数を規定しない、つまり使用する原酒の酒齢に縛られない「ノンエイジ・ウイスキー」が流行になっているそうです。私の中では、「NAS」と言えば、ネットワークに直接接続して使用するファイルサーバー(Network Attached Storage)のことしか思い浮かびませんでした。ウイスキーの世界では、「NAS」と言えば、Non Age Statementの意味で「ノンエイジ」「ノン・ヴィンテージ」「ナス」と呼ばれています。原酒不足が背景にあるのは間違いありませんが、熟成年数にこだわらず良い原酒をブレンドして良いウイスキーを作ることが正しいウイスキーメーカーの使命である、という考え方が商品化されたものです。サントリーと言えば、『山崎』や『白州』など、年数表記のないものがそです。ここまでウイスキーに言及してしまっただけで、ついでに東京からも近い「白州蒸溜所」にも行ってみたいことにしました。最寄り駅は、JR中央本線「小淵沢」駅で、新宿からJR特急「あずさ」に乗って約2時間で行けます。ちょうど駅舎が新旧交代のタイミングで、行った日の1週間後には新駅舎に切り替わるとのことでした。白州蒸溜所は、山崎蒸溜所開設50周年となる1973年（昭和48年）に、サントリーが第2の蒸溜所として山梨県白州町（現在は北杜市）に建設した蒸溜所です。約82万㎡の広大な蒸溜所の敷地内には、同社の「南アルプスの天然水」の工場も併設されています。詳しくは書きませんが、山崎蒸溜所の設備とは結構違いがありました。全体的に近代化された施設で、個人的には山崎蒸溜所の雰囲気の方が好きでした。ここ白州蒸溜所も、蒸溜所ガイドツアー参加の際には予約が必要になります。

『マッサン』の影響で、どこの蒸溜所も見学に来る人が急増し、ニッカの「宮城峡蒸溜所」などは、今年3月に新たにビジターセンターをオープンさせたくらいです。白州蒸溜所も、土日のツアーは直ぐに満席となってしまいます。そんな白州蒸溜所を見学して帰り際に、受付に黄色いチラシが積んでありました。見ると、「ウイスキー検定」の案内で、最近は何でも検定にするんだなあと思いつつも、これも何かの縁なので、話のタネ（本誌のネタ）に受験してみることにしました。（つづく）



「小淵沢」旧駅舎 7月3日にオープンをはかえた新駅舎 白州蒸溜所の入口、蒸溜所の周囲は広大な森林に囲まれています。 サントリー・シングルモルトウイスキー『山崎 50年』、数量限定販売（価格：100万円）



マッシュタン（糖化槽） 乾燥した麦芽を粉砕した後、この容器の中にお湯を加えて発酵に必要な糖液（麦汁）を抽出します。 ウォッシュバック（発酵槽） 糖液に酵母を加えて発酵を行います。2〜4日でアルコール度数7〜9%の発酵液（モロミ）が出来ます。続いて、初留釜で蒸留を行います。 ポットスチル（初留釜） 山崎蒸溜所では、釜が並んだ高温の部屋に入りましたが、白州ではガラス越しにしか見れませんでした。 ラック式のウエアハウス（熟成庫） 山崎蒸溜所では、最も伝統的なダンス式で保管されていましたが、白州では、スペースを有効に使える方式を採用していました。 蒸溜所の受付に置いてあった、ウイスキー検定のチラシの一部

T O M O K O ' S R E C O M M E N D

ライブで、受けたことの無い感動や衝撃を受けると、長期間そのアーティストで頭がいっぱいになって、ひたすら情報を追って再度音源や映像を追っかけるストーカー行為なファン行動に走り出すよね？（笑）それが私の中ではマッシュヴ・アタックでした。フジロックで観て感銘を受けてから7年。先月待望の来日公演へ行ってきました。マッシュヴ・アタックのライブはディープなサウンドを全身で浴びるあの没入感が格別で、洗脳されたような気持ちになります。ダブ・レゲエチューンで気分良く音楽に身を委ねていると、ツインドラムの重厚な音とノイズ・ギターの轟音がフロアに響き渡り、苦しいくらいの音圧は圧巻でした。更にバックスクリーンにはグラフィックデザインの映像に加えて大半を占めているのは文字や写真。移民統計、パスポートの信頼度ランキングの文字と数字の羅列。大きく反核。世界情勢や国内の時事ネタなど様々なヘッドラインが流れて、難民や移民の写真が映し出されます。最後は「僕らは一緒にこの中にいる」というメッセージで締めくくられました。メッセージ性の強さに複雑な感情が徐々に押し寄せてきました。ただカッコよかったなあ…で済まない、この問題定義をファンはどう受け取り考えて行くか非常に考えさせられるライブでした◎



ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。 発行：株式会社エーディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4 www.adproject.co.jp

皆様の いいね！をお待ちしております。

facebook adproject 検索

adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

もしくは、https://www.facebook.com/adproject.japan

2017 12 Legend

vol.067 対談企画①

電気自動車の未来



株式会社JAFメディアワークス ITメディア部 部長 鳥塚 俊洋 × ゼネラルプロデューサー 榎垣 俊幸

榎垣 鳥塚さんは、月刊誌『JAF Mate』の編集長を長くやられて、車と自動車交通の専門家です。今日は電気自動車（※以下EV）について、お聞きしたいと思っているのですが、自動車メーカーだけでなく家電の会社も出てくるわけだから、その辺の区分けが分かりにくい。かと思えば、セーフティドライブ、自動運転というのもどうということなのか？ということなど教えてください。

鳥塚 今は、EVと自動運転が別々に話題になることが多いので、“別のもの”という印象になっていますが、EVと自動運転は関係しながら進む技術なんですね。一番、分かりやすいのがタイムラーのビジョンで、将来の自動車が向かう道のキーワードを“CASE”という4文字の頭文字で表しています。Cが“Connected（コネクテッド）”で接続性、Aが“Autonomous（オートノマス）”で自動運転、Sが“Shared（シェアード）”で共有。そして、Eが“Electric（エレクトリック）”で、電動化・EVです。まさにタイムラーが今この4つに向かって走り始め、他のメーカーも追いかけてこのごとく、同じ状況ですね（笑）。

榎垣 でも、それは良いことなんですよね？

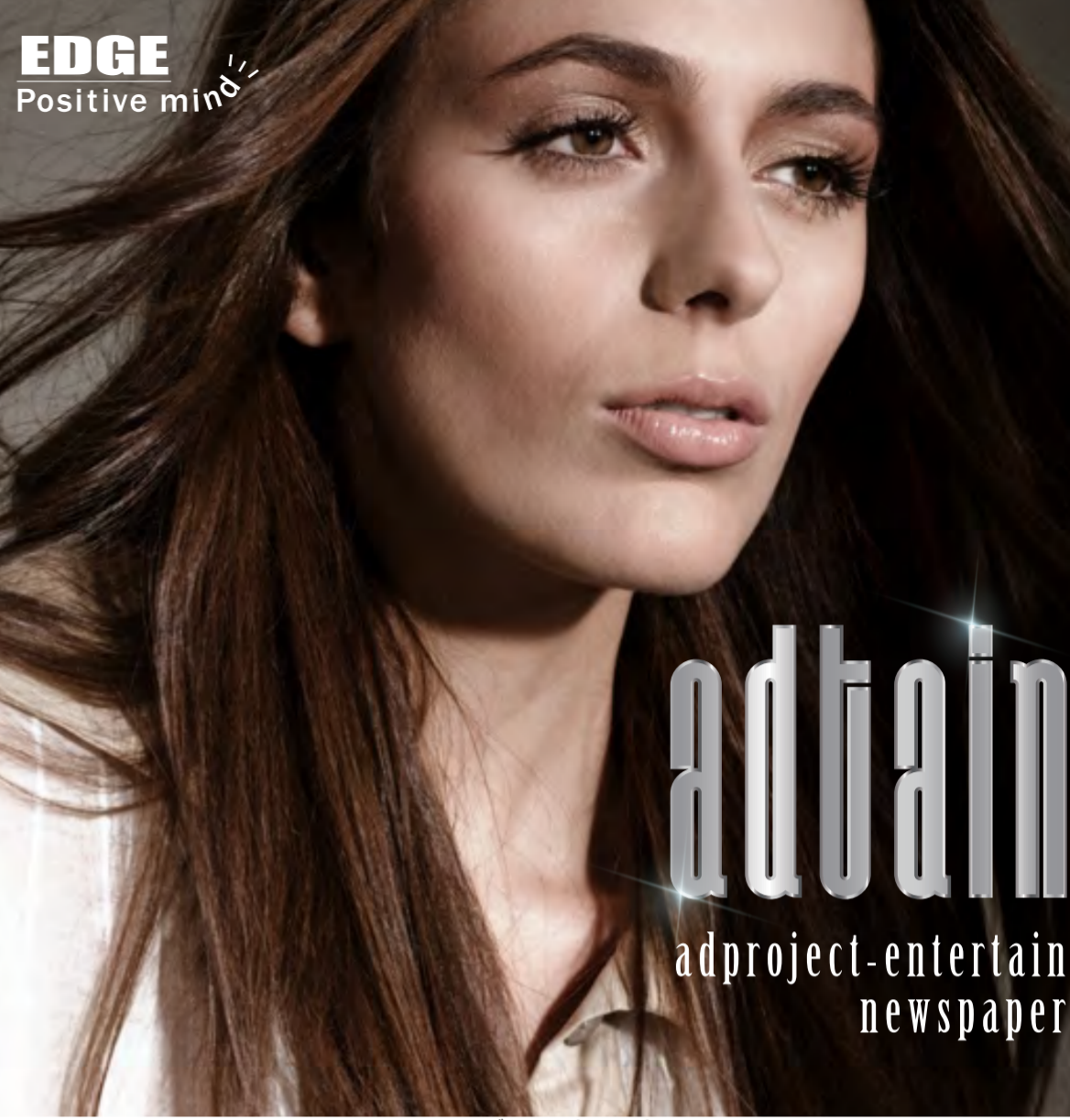
鳥塚 もちろん良いことです。具体的には、自動運転になれば、交通事故が確実に減ります。例えば高齢になればなるほど運転ミスは多くなっていくので、それを自動運転が防いでくれるれば明らかに安全性は上がるし事故も起こさなくなりますから、高齢者には大きなメリットがあるといえますね。

榎垣 国としては、どうなのですか？

鳥塚 国も強力に推進していますね。

榎垣 自動運転の楽しさというのが今ひとつピンとこないんだな。

鳥塚 完全自動運転になれば、運転はしないので、残念ながら運転の楽しさは味わいようがないですね（笑）。でもそれに変わって、セカンダリータスクなどと呼ばれていますが、車の中で別のことができるようになります。GMが1939年の万国博覧会に未来の車社会の模型を展示してらんですが、高速道路は自動運転になっています。また1950年頃にアメリカの電力会社が描いたイラストでは、未来の車の



モデル：Boroka / Height:182cm B:84 W:61 H:93 事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT（アートルック） http://artrick.com

adtainとは、adproject と entertain が融合した「おもてなし」のトピックス誌



中で家族がゲームをしていて、そういう社会が楽しいものとして、すでにモデル化されているんです。

榎垣 我々のようにアドバイザーをやってきた人間だと、よりエンターテインメント性を求めて、空も飛べるんだと（笑）。

鳥塚 実際に一部研究もやっていて、ドイツのモーターショーでもタイムラーはドローンのような形のものを出展していましたし、いろんな企業が“空飛ぶクルマ”をやっていますよね。僕が生きてるうちには、ちょっと早いかもしれないけど。でも自動運転は榎垣さんが生きているうちに出てきそうですよ（笑）。

榎垣 そうだよ。ベンツなんか半分自動運転みたいなものだから。

鳥塚 まあ、まだ自動運転と言えるレベルではないですが、2020年にレベル3の自動運転の車を出すというのが、政府のSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の目標になっています。

榎垣 広めるために『自動運転の車じゃなきゃ乗らない！』っていう女の子の集団をいっぱい作ればいいんだ（笑）。本当は、車を含めたものが変わることによって、他のものも

どのように便利になり、どんな風になるのかというのが見えてくればいいんだよ。

鳥塚 そうなんです。GMなどが20世紀半ばに作った未来像が結構当たっているのだから、だったら今、2050年ぐらいを目指して、同じようなモデルを作るべきだろうという意見は最近よく聞きますね。手を挙げる人や企業はまだないようですよ。

榎垣 70年前に考えた未来が現在なら、今から考える理想的な未来の姿を創造するのは必要で、そういうのをやるべきだよ。誰かが車社会の未来を引っ張っていかないと。

鳥塚 2050年の絵を描くのは面白そうですね。

榎垣 色っぽい車がいいね。『俺の恋人』とか言って、ピッとやるとやって来る。「うちのヨシコです」って（笑）。

鳥塚 2050年ぐらいだと、AIの進化で車はそういう人格を持っているかもしれない。

榎垣 ちょうど化石エネルギーに関して枯渇やら温暖化といった問題が出る頃に電気に交代するというのは、よくできてるね。本当に鳥塚さん、長生きしてください。僕は、お先にいきますから（笑）。

